

平成三十一年度 滋賀県立玉川高等学校特色選抜問題

平三十一

小論文

注意

*答えは縦書きとし、全て解答用紙の決められた枠内に
*数字は入札点も含む。
*漢字は楷書、読みやすい。
*原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受検番号

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

機械と生きものの違いを考えてみます。

機械は「構造と機能」がわかればOKです。しかし生きものはそうはいきません。たとえばアリの理解しようと思ったとき、ア리를バラバラに分解しても本質はわかりません。そのアリのどのようにして今の姿になったのか。38億年の歴史とほかの生きものたちとの関係を読み解かない限り、ほんとうの意味でア리를理解したことにはならないのです。

もう一つ付け加えると、機械はどれも均一にすることが大事ですが、生きものはどれだけ多様になるかが大切です。

追求することも違います。機械は利便性を追い求めますが、生きものは「つづいていくこと」(継続性)を重視します。生活がどんなに便利で豊かでも、人類という種が途絶えてしまったら意味がありません。「つづく」ということの意味を考える必要があります。

生きものの研究が、「生きているとはどういうことなのか」を調べていくには土台となる生命論的世界観が必要なのです。

生きものの一員として、自分がどう生きていくかを決めて、どういう社会をつくっていくと暮らしやすいかを考える。そして、その社会を実現するために必要な科学技術を考える――。これが科学の本来の順序なのですが、今の社会は逆です。まず技術ありき。しかも技術の前に、経済ありきなんです。社会と生活と思想がないから「どう生きるか」という部分が抜け落ちて

います。

38億年前に生まれた小さな細胞からさまざまな生きものが生まれ、ときどき絶滅の危機に瀕したけれど乗り越えて、そうするうちに霊長類の仲間から二本足で立つちよつと変わった生きものHヒトが誕生しました。生きものは何千万種も存在しますが、ほかの生きものは人間のよう

に高度な文明を持った社会をつくることはできません。

人間は、20世紀に大きなビルが建ち並び、その間を電車や自動車走り、飛行機が空を飛び、コンピュータが至るところで使われる、そういう社会をつくってききました。

人間が脳など独自の能力を生かしたことはとても重要です。だからこそ、このような社会をつくることのできたのですから。それを否定しませんが、でも人間は自然の一部であるということ

(中村 桂子『科学は未来をひらく』による。)

(注) 利便性H利用のしやすさの度合い。都合の良さ。

ありきHあることを前提としていること。

危機に瀕するH危機が近づく。危機が迫る。

問 傍線部に「人間は自然の一部であるということ」とありますが、あなたはこのことをどのようにとらえますか。本文の内容をふまえて、あなたの考えをその理由や根拠も明らかにしながら書きなさい。ただし、字数は二百四十字以上、三百字以内とする。